

先進地視察まとめ

協議会先進地視察（中信）

	塩尻市総合体育館 [ユメックスアリーナ] R 2 年竣工		松本平広域公園 [信州スカイパーク]		松本市四賀球場		
	県内体育館の先進事例		県内最大規模の都市公園		コンパクトに整備された公認硬式野球場		
							
施設概要	所 在	長野県塩尻市	所 在	長野県松本市	所 在	長野県松本市	
	指 定 管 理 者	ミズノ(株)	指 定 管 理 者	TOY BOX 〈松本市に本社を置き、関係4社で構成された公共施設の管理運営を行うコンソーシアム（共同事業体）〉	管 理 者	松本市	
	メ イ ン ア リ ー ナ	約42.4×約35.7m（バスケ2面） 観客席 約708席（固定）	敷 地 面 積	141.6ha	グ ラ ウ ン ド 大 き さ ・ 舗 装	面積：13,256㎡ 両翼：98.0m 中堅：122.0m （公認野球場の規模）	内野：クレ－ 外野：人工芝
	サ ブ ア リ ー ナ	約35.7×約20.7m（バスケ1面） 観客席約50席（固定）	視 察 し た 施 設	ドッグラン ※現在エリアの拡幅を検討中 中・大型犬用：約1,600㎡ 小型犬用：約400㎡ ランニングステーション（R4年4月～） サイクルセンター：園内2か所に設置 など	観 客 席 数	内野スタンド 1,458席＋芝生席832人 外野スタンド なし	
	駐 車 場	250台	そ の 他	・公園全域で年間通じて人気があるのは大型木製遊具。夏季に人気なのはBBQピット ・飲食施設の要望はあるが、平日の収入を見込めないため、土日のみ、民間事業者による売店やキッチンカーによる販売を行っている。	駐 車 場 台 数	200台（＋大型車5台）	
	そ の 他 の 付 帯 施 設	屋内ランニングコース、屋外多目的広場、 トレーニングルーム、スタジオ、会議室 など			そ の 他 の 付 帯 設 備	ブルペン、本部・記者室、審判員室、ロッカー室、放送・記録室、会議室、夜間照明	
	立 地	市街地近くの郊外 松本歯科大学の近く			立 地	郊外	
	主 な 利 用 対 象	おもに市民利用 スポーツスクールなど有料プログラムを多数開催			利 用 状 況	令和3年度大会実績 78日 内訳：信濃グランセローズ2、社会人8、 大学生5、高校生28、中学生15、小学生20 令和3年年間利用者数 14,516人	
開催された大会やイベント	・男子バレーボールVリーグ1部（体育館プレオープンイベント） ・B1プレシーズンゲーム ・2022年度の大会予約状況は小学生2、中学生12、高校生7、大学生1、一般27（土日開催）						
	・トレーニングルームやスタジオ、屋外広場などの付帯施設の内容などが先進の事例として参考になる。 ・メインアリーナとサブアリーナの開放的な配置が特徴である。 ・スクールなど有料プログラムが豊富であり、そうした収益を確保する管理運営のノウハウをもつ企業の参入について検討の余地がある。 ・施設新設後も市内の既設施設の利用率は低下していない。千曲市においても、現状の利用ニーズや周辺施設との調整が必要になる。		・ドッグランの運営体制や利用状況、利用におけるトラブルへの対応などのノウハウ。 ・レンタサイクルの収益やランニングコスト。ここでは公園内の利用に限られているため、地域で運営している事例も参考にしたい。 ・スケートボードは現状の課題や新設の要望のほか、公園利用者からの苦情等や否定的な意見も寄せられている。		・松本市野球場のを補完する施設という位置づけで、高校野球の地区大会が開催できる規模として整備された経緯がある。 ・駐車場増設の意見があるほど土日の利用が多くある一方で、平日の利用率は低い。 ・郊外とはいえ民家も近くにあり、周辺住民から照明や音について苦情がある。		
参考にしたい点							

	軽井沢風越公園		佐久総合運動公園		GMOアスリーツパーク湯ノ丸	
	多目的利用型 軽井沢町のスポーツ拠点。一般のレジャーとしての利用や各種スポーツ合宿での利用、大会会場としても幅広く利用できる。 		公式競技場型 幅広いカテゴリーでの公式試合が開催可能。 		トレーニング特化型 標高1,735mという立地を活かした高地トレーニング施設。 	
施設概要	所	在	長野県軽井沢町	所	在	長野県佐久市
	指 定 管 理 者		風越パークコーオペレーション	指 定 管 理 者		シンコースポーツ(株)
	敷 地 面 積		-	敷 地 面 積		22.1ha
	主 な 運 動 施 設		総合体育館 アイスアリーナ（通年型） スカップ軽井沢 屋外テニスコート（14面） 多目的グラウンド（サッカーと軟式野球の併用型） 軽井沢アイスパーク（夏季:ローラースケートとフットサル/冬季:スケートリンク）	主 な 運 動 施 設		陸上競技場（第2種公認競技場） 補助競技場 野球場（プロの野球場規格） クロスントリーコース:全長1,400m マレットゴルフ場：36ホール
	駐 車 場 台 数		553台	駐 車 場 台 数		860台
	立	地	郊外	立	地	郊外
	主	な	利	用		開催された主な大会・イベント
			町民・合宿利用 町内小学校の体育授業での利用			〈陸上競技場〉 東信地区中学・高校総体（陸上・サッカー） 東京2020大会エストニア事前合宿 〈野球場〉 北信越地区高校野球県大会 BCリーグ信州グランセローズ公式戦 全日本大学軟式野球選抜大会
参考にしたい点	- 各施設の規模感や配置計画。 - 利用対象者を時間帯ですみ分けるなどの工夫。 - 総合体育館について、メインアリーナは戸倉体育館と比べて面積は大きいが観覧席数は少ない。戸倉体育館のターゲットを市民利用と合宿利用に置いた場合のひとつの目安になる。 - 高校の部活での利用（多目的グラウンド）、小学校の授業での利用（プール）、クラブチームでの利用（アイスアリーナ）など町内のニーズに対応した施設が整っている。		- 公式競技が開催可能な施設となると敷地面積等さまざまな条件が必要になり、戸倉体育館エリア（7.88ha）の敷地面積に対して配置できる運動施設は限られてくることがわかる。 - 野球場の整備は硬式野球に対応した球場にするかという点が検討ポイントのひとつになる。 - クロスカントリーコースは地元の高校の要望をもとに整備し、地域の代表的なスポーツを支援する施設となっている。 - 駐車場について、誘致する大会やイベント等の集客をふまえた検討を行う必要がある。（敷地内に確保できる台数、臨時の対応など）		- トップアスリートの高地トレーニング施設として国内有数の施設である。競技者やコーチ視点から施設整備がなされており、利用者からの評価も高い。 - ターゲットが明確であるためにアピールがしやすい。 - 資金調達の面では、ネーミングライツやふるさと納税などを活用している。	